



“先行的腎移植”の比率の高さを誇ります



当科の歴史は遡ること25年前、1984年に全国10番目の地方腎移植センターに認定され、それに引き続き、“腎移植科”を名乗り診療を行ってきた腎移植施設の中では比較的歴史の古い科です。1985年2月に第1例目の腎移植を実際に行ってから2009年7月現在416件の腎移植を行って来ました。最近では年間30件以上の腎移植をコンスタントにこなし、全国でも5-6位にランクされる移植施設となっております。

2009年4月から新体制



後列中央：岩見医師
前列左：鳥潟看護師

これまで、開設から尽力された平野哲夫元理事が2009年3月に当院を退職（4月より嘱託医として勤務）され、4月からは原田が責任を任され、名称も新たに腎臓移植外科と変更され、新体制で臨んでおります。抱負としては、さらなる腎移植件数の増加は勿論、移植腎生着率、患者生存率の向上をあげています。このために、術前提供予定者、移植予定者の徹底した健康状態のチェックをより厳格に行うこと、手術技術の向上、適正な免疫抑制剤管理、拒絶反応を早期に診断する厳重な臨床データ解析、定期腎生検による早期拒絶反応や、潜在性腎病変の検索を積極的に行っておりま

腎臓移植外科
部長
原田 浩



す。さらに、おろそかになりがちな献腎登録者の心血管病を中心としたスクリーニングにも取り組む所存しております。

腎移植はチーム医療であるとたびたび言われます。これまでは医師3人、看護師1人の外来体制でしたが、4月からは新たに腎移植コーディネーターが配属され、腎移植を希望する方、腎移植を受けられた方の総合的なサポート（医学的、精神面、社会面）を担当し、より密度の濃い外来の対応が可能となりました。

当科では全ての腎移植が可能ですが、全国的にも透析を経ない“先行的腎移植”の比率の高さは群を抜くものがあります（全国平均10%に対し当科では30%に迫ります）。患者生存率、移植腎生着が透析を経た群よりも良いのみならず、透析の準備のための無駄なアクセス手術が不要、透析による生活の質の低下が避けられるため、腎代償療法中では理想とされております。慢性腎臓病担当医の方、腎代償療法のオプション提示の際には腎移植も透析（血液・腹膜）と並び（というより凌ぐ）治療であることを是非患者さんに情報提供していただき、当院をご紹介いただければ幸いです。

